



学校だより

平成31年 2月28日
練馬区立田柄第二小学校
校長 谷田 弘子

HP <http://www.tagara2-e.nerima-kyo.ed.jp> e-mail info@tagara2-e.nerima-kyo.ed.jp

教育目標:元気な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.493

「見送り三振」より「空振り三振」を

校長 谷田 弘子

9日（土）に行われた学校公開には、多くの保護者の皆様に参観と児童への励ましの言葉をいただき、児童は張り切って活動をしていました。「卒業を祝う餅つき」では、6年生が千本づきの体験をし、つくたてのお餅をお腹いっぱい食べました。開校4年目から続いている田二小伝統の行事です。地域の皆様と卒業対策委員、元PTA役員、現PTA役員、保護者のお手伝いの方々のおかげで、事故なく、楽しく終えることができました。本当にありがとうございました。

いよいよ、今年度も終わりが近付いています。登校日は15～16日となりました。それぞれの学年を修了するに当たり、今回は、「『見送り三振』より、『空振り三振』を」という言葉を考えてみます。

野球を続けている児童が本校にも多くいます。バッターボックスに立った選手は、ヒットやホームランを打つこともあれば、三振することもあります。元プロ野球選手の小林繁さんは、「人生のバッターボックスに立ったら、見送り三振だけはするな」という言葉を残しています。「良いボールを見逃すのでは無く、果敢に狙って行って、結果として

『空振り三振』となる。ボールを見送っているばかりではヒットは打てないが、空振りは何回か続けていくうちにバットにかすり、やがてヒットになると信じている。どんなに相手の投手が凄くてもバットさえ振れば可能性はあるが、振らなければ確実にゼロになる。目の前にあるものは、失敗を恐れずに挑戦してやってみることである。」ということを伝えています。

私達の生活でも同じようなことはないでしょうか。考えてばかりで実行しないようなことはないでしょうか。子供たちは、自分の人

生の「バッターボックス」に立っています。見送り三振した後、「あーあ、あのボールを打てばよかったな」と愚痴を言うのではなく、思い切ってスイングした後、なぜバットにあたらなかったのかをよく考え、準備をして次のバッターボックスに立つことを続ければ、必ずヒットやホームランが打てるはずです。

今学期は、担任の先生方が1年間を振り返って、児童の成長の様子を綴っています。

「何事にも一生懸命に取り組んでいます。次はその取組の目的をしっかりと理解して、明確な目標を自分で決めることができるようになってほしいと願っています。」「学習では、自分の分からないことをきちんと把握し、それを克服しようと努力している姿が素晴らしい。」「ひとつの経験から学んだことを、他のことへも応用できることに気が付き、努力をしていました。」などと学年が上がるに従って、自分を見つめる目が育っていくことが良く分かります。これから最上級生となる5年生では、「クラブや委員会では、下級生のお手本となって、しっかりとリードできる最上級生になってほしいです。」「目標を早く決めて、最後まで諦めずに取り組んでいくことができると大いに成長できると思います。」などという言葉が並んでいます。いずれも、失敗や間違いを恐れずに、失敗や間違いから学んだことを自分のものとして大きく成長してほしいという担任の願いが溢れています。このことが、「『見送り三振』より、『空振り三振』を」ということです。

3月はあっという間に過ぎますが、次の学年や中学校へ向かっての大切な準備時間です。今までの自分を振り返って、失敗をおそれていなかったか、諦めてばかりいなかったかを振り返り、より多くの事に挑戦する日々であってほしいと願っています。

